



Title	まだ終わっていない被災地支援 : 3.11東日本大震災 被災地の復興と人材育成
Author(s)	高木, 晴光
Citation	シンポジウム「被災地の復興と人材育成 : 持続的社會構築のための社会起業の可能性」(Reconstruction of Disaster-Aaffected Areas and Human Resource Development : The possibility of Building Sustainable Societies through Social Entrepreneurship). 2011年10月23日(日). 北海道大学学術交流会館 小講堂.
Issue Date	2011-10-23
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/47639
Type	conference presentation
File Information	takagi_CENSUS.pdf



[Instructions for use](#)

まだ終わっていない 被災地支援



3.11東日本大震災
被災地の復興と人材育成－

自己紹介 高木晴光

- 1954年 千葉県船橋市生まれ
- 大学で北海道札幌へ
- 北海道や日本、ネパールの山登りに明け暮れる

- 貿易商社に入社 農業機械、生活資材 北欧に訪れる機会
- 不動産開発 ・健康レジャー産業(ホテル、健康ランド、スポーツクラブ)
- 社会体育専門学校の経営

- 1992年 北海道自然体験学校NEOS(現NPO法人ねおす)設立
- 1999年 黒松内ぶなの森自然学校を設立
- 2000年に黒松内へ移住

- ・ 昨年は人生の充電期間と位置付け、2011からは農的自然学校へと考えていたのですが、2011年3月から東日本大震災・釜石支援が本年度の第一義の仕事になっています。

自己紹介

北海道の森や山、海や川、山麓の町や村で、
その豊かな自然と地域に暮らす人たちに出会う、

旅と交流づくり(田舎ツーリズム)を通して

自然と社会(都市と田舎)との
心地よい関係(人・地域)づくりに貢献し、

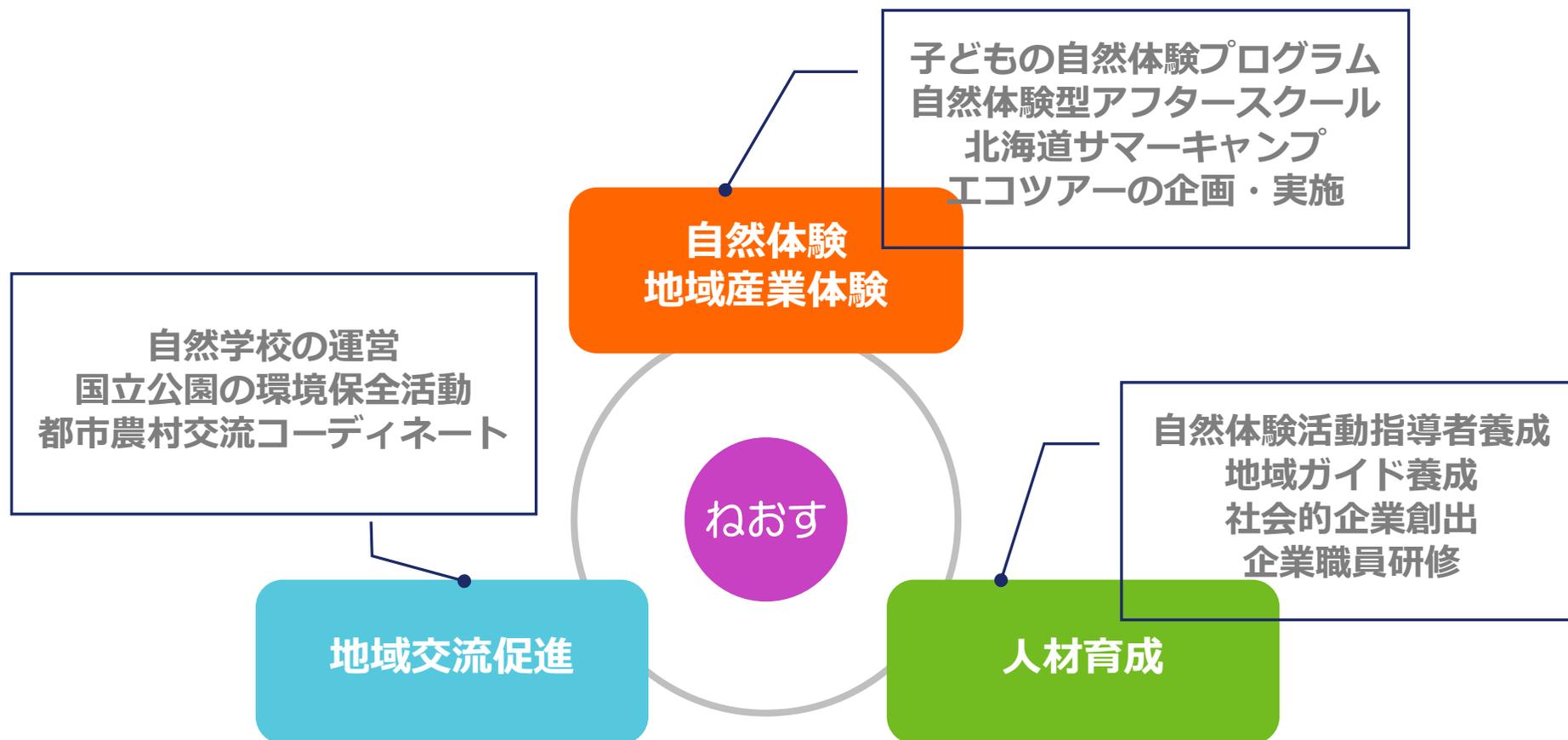
人々の心の糧になるような
北海道らしい地域・自然体験文化を育てます。

ねおすの意味

- 北海道自然体験学校NEOS
- N 自然 Nature
- E 体験 Experience
- O 野外 Outdoor
- S 学校 School

Education(教育)、Enviroment(環境)、Ecology(生態学)、
Neo (新しい)

自然体験活動を手法に、
「環境」「観光」「教育」「地域づくり」
を事業領域とするNPO。





黒松内 ぶなの森自然学校





岩手県釜石市。
遠野市から1時間。



鉄・海・山のマチ。

3月11日発災

3月12日 現地へ向けて出発

3月13日 釜石市鵜住居町に入る



沿岸部。

なす術がなかった・・・

情報伝達手段がない・・・

車の燃料がない・・・

電話、携帯電話、TVは使えない
わずかに入るNHKラジオの情報のみ……

しかし、

携帯電話が通じる場所に行っても、現地で
欲する支援を完全に伝えられなかった。

映像やレポートでは伝え切れない。

現場に行っても 作業体験しても・・・
想像を絶する・被災「その時」を想像できない
しかし、身体が震え理解する場面がある

それは、被災者から
被災地を目の前にして話を聞いたとき、

阪神大震災との違い

300Km以上に及ぶ沿岸地の被災
都市ではなく、過疎地の被災

初動支援（3/12～） 緊急支援・・・今を生きる

被災地と避難所の状況確認、緊急物資の提供、炊き出し

第2期支援（3/19～）緊急物資支援

緊急物資の配送、子どものケア（児童保育・居場所づくり）活動開始

第3期支援（3/31～）避難生活をより快適に・・・

被災者の居場所づくり（青空喫茶・フリマ・カフェ・交流の場）、デイケア活動
地元キーパーソンとの関係づくり、道内・地元NPOとの協働支援
ボランティアセンターとしての機能化

第4期支援（4/12～）支援の有り方を考える

被災者ニーズと様々なボランティアとのマッチング
ボランティアツアーの仕組みづくり、地元活動団体への支援活動

第5期支援（5/2～）支援のコーディネイト

ボランティアツアーの定期実施、漁業復興支援のための事前調査、
交流・ツーリズム的な地域おこしを視野に入れた地域資源の調査

第6期支援（6/1～）長期支援へ

青空広場（コミュニティの形成、子どもの遊び活動）
現地コーディネーターとして被災者の雇用
地元既存団体等と構成する長期に渡る復興活動団体の組織化に向けた調整

9月下旬段階で

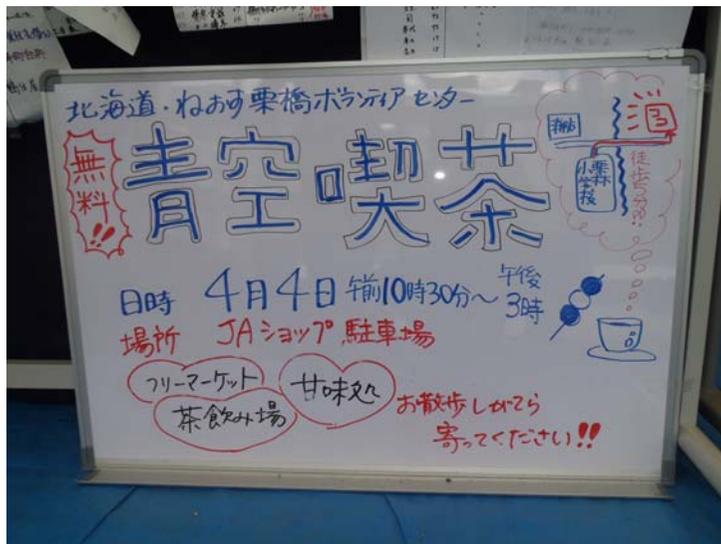
延1700人日のボランティアさんが活動。

うち学生さんが半数以上占める。

子ども活動。



青空喫茶。





地域の活動支援
「山のカフェ」



避難者がいる「現場」で
寝起きしている。

様々な団体・個人と連携しながら、
同じ場所で支援活動していること。



地域・被災者との顔のみえる信頼関係。





ボランティアツアー
作業、視察、民泊、振り返り。



仮設住宅入居者への支援。



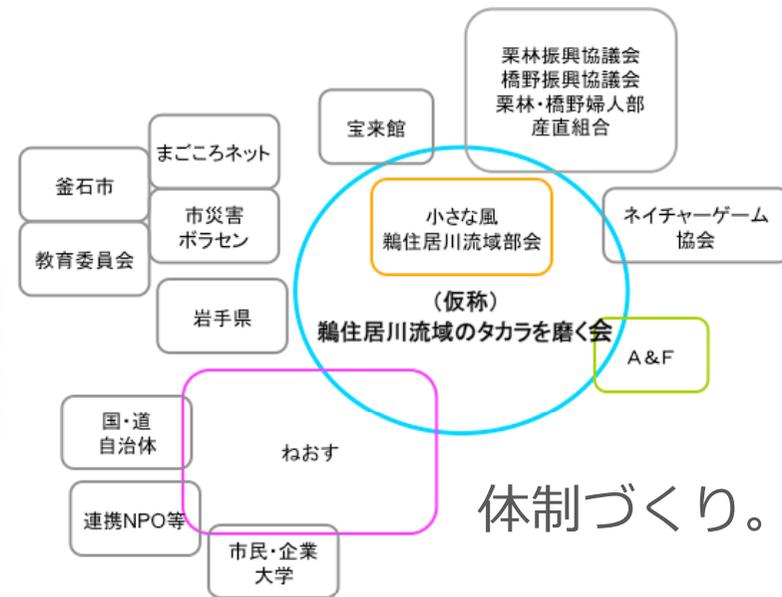
これから

- 避難者(仮設住宅)の交流促進、居場所づくり
- 漁業支援
- 交流と学びのツーリズムを復興メニューに…
支援だけでなく、訪問者が学ばせて頂く場
ボランティアは二次的目的…釜石の長期的なファンづくり
- 鵜住川流域のタカラを磨く会
- 防災意識を高めるために…災害支援の記録
↓
三陸釜石・海と山の学校(自然学校の設立準備活動)

地域・被災者自身による復興。 地域に寄り添いながら、 そのサポートをしていく。



学びの場。



今私達にできることをする。
ツーリズム・交流の手法。

被災地支援を続けて思うこと

- 役割・・・ 役割がやってくる場面と役割を創る場面
- 何かをしてあげるではない・・・学ばさせて頂いている
 - 私が始めなれば・・・漁師は海にたいんですよ・・・
 - 日本の多様性が失われていようとしている
 - 夢がないと生きてゆけない
- 目をみはるばかりの学生・若者ボランティアの成長

- 目の前にある課題を解決する
- 今より上手に、今よりうまくゆくように。
- 目の前の人が好き、その姿を見て喜べる
- リアルな体験
- その場で生きる力・生活する力

被災者の今の気持ち・・

忘れないで欲しい・・・

他の地域の人達とつながってほしい

見にでもいいから・・来て欲しい・・・。

課題解決へ向けて 人、物、情報、お金を
常に調整してゆくコーディネーターの不足

ありがとうございました。